

緩和ケア便り

日頃、緩和ケアチームにご支援・ご協力いただきまして、本当に有り難うございます。

平成28年4月22日(金)に「平鹿総合病院緩和ケアチーム 平成27年度活動報告」が行われましたので、その概要と報告会の様子をご報告致します。

平鹿総合病院 緩和ケアチーム活動報告

【プログラム】 17:30～19:00

- (1)平成27年度 緩和ケアチーム活動概要報告
- (2)苦痛のスクリーニング実施状況報告
- (3)緩和ケアマニュアル ポケット版改訂の説明



平成27年度 緩和ケアチーム活動概要報告 薬剤科:中島範子さん

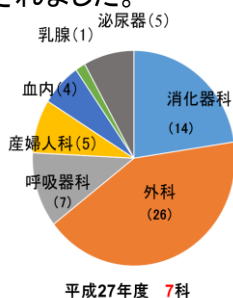
27年度は、介入患者が62人となり、平成26年度と比較して17人増加した。また、平成26年度に続き、PCAポンプを利用した自宅退院患者を出すことができた。更に、平成26年度と同様に、医師・薬剤師・看護師のみに限らず、理学療法士・作業療法士・栄養士など、多職種者の介入が増え多岐にわたる患者の苦痛に対応できた。27年度の介入科は7科に減少した(26年度11科)。今年度は、より早期からの介入(早期からのコンサルテーション)を目指し、苦痛スクリーニングの周知・徹底・活用をしていきたい。そして介入希望者の拾い上げを行い、介入科の拡大と緩和ケアの充実を目指したいと話されました。

スクリーニングが行われた。平均年齢は68.6歳(38～86歳)、男性65人(73%)、女性24人(27%)であった。「病状や治療」、「日常生活」には約5割の患者が関心を示し、体の症状と生活の支障に関しては4割の患者が何らかの介入を希望していた。67名が生活に支障を感じるNRS4以上の苦痛、もしくは4点以上の心のつらさを訴えており、緩和ケアチームへの紹介は21名であった。「スクリーニングは実際に使用してみると、患者さんの苦痛を把握するのに便利なツールであり、さらに実施病棟、部署を増やしていきたい」と武田先生は、今後に向けての意気込みを話されていました。

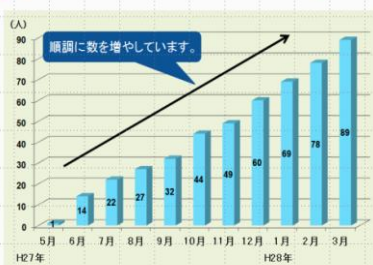
平成27年度コンサルテーション依頼

介入患者 新規：59人 計：62人
継続：3人

- ・男性：40人
- ・女性：22人
- ・平均年齢：65.9歳(28～86歳)



苦痛のスクリーニング 開始後の状況



緩和ケアポケットマニュアルが改訂されました。
近日、院内全体に配布予定です！

苦痛のスクリーニング実施状況報告 外科科長:武田郁央先生

昨年度は、早期からの緩和ケアを実践するために、苦痛の評価シートを用いたスクリーニングを導入した。更に、新たに「当院における緩和ケアの流れ」をフローチャート化し、緩和ケアにアクセスしやすいシステムを作成した。苦痛のスクリーニング対象はがんの診断がなされ、告知を受けている入院患者とし、2015年5月1日～2016年4月22日現在までに89人の患者に対し、スクリー

緩和ケア マニュアル

ポケット版

平鹿総合病院
緩和ケア委員会

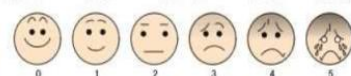
緩和ケア認定看護師 5905
緩和ケアチーム(8はな病棟) 4120

平成28年3月 第3版発行

Numerical Rating Scale(NRS)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

痛みはない 軽い痛み 中程度の痛み 強い痛み 最悪の痛み



Face Scale(FS)